

# LEADERSHIP CHALLENGE

## 大隈塾LCレポート vol.8

第8回目の大隈塾リーダーシップ・チャレンジは11月15日（土）、「パブリック・ナラティブ」のワークショップを行いました。

パブリック・ナラティブは、オーガナイズ（組織化）における重要な手法です。どのようにストーリーを通して価値を伝え、世界を変えていくのに欠かせないモチベーションを引き出すかというものです。



アメリカのオバマ大統領の最初の選挙で、若者たちを大量に集め（オーガナイズ）、劣勢だったオバマ氏を大統領の座につけた貢献者の一人、ハーバード大学のマーシャル・ガンツ博士監修のテキスト『Leadership, Organizing, Action』には、以下のように書いてあります。

=====

このパブリック・ナラティブを通して私たちは、なぜリーダーシップをとろうと思いついたかを語り(ストーリー・オブ・セルフ)、集団としてリーダーシップを発揮するように促す、私たちが所属するコミュニティの価値観について語り(ストーリー・オブ・アス)、そして、今行動することを迫る、私たちの価値観に対して直面している困難について語るのです(「ストーリー・オブ・ナウ」)。

価値観に基づくオーガナイズは、(問題に基づくオーガナイズと比較すると)人々の多様性が、障壁ではなく財産になるよう、それぞれが「問題の小さな貯蔵庫」から抜け出して来て、他の人と力をあわせるよう促します。新しいことを学び、物事を行う新しいやり方を探求するリスクをとるためには道徳的資源が必要です。価値観は感情を通じて経験するものなので、人々はストーリーを語る事で感情を伝え、聞き手の道徳的資源(勇気・希望・連帯)を呼び起こすことができるのです。“セルフ(自身)”、“アス(私たち)”、そして“ナウ(今)”の橋渡しをするパブリック・ナラティブをいかに語るかを学ぶことにより、オーガナイザーは自身の力をより効果的に発揮し、運動における信頼と連帯を生み出し、他の人々を効果的に活動に関与させられるようになるのです。

=====

パブリック・ナラティブ・ワークショップ  
-大隈塾リーダーシップ・チャレンジ2014-

2014年11月15日

日時	時間	内容
9:00	0:05	開会・主催者挨拶
9:05	0:05	COJによる挨拶・スケジュール確認
9:10	0:20	参加者自己紹介
9:30	0:00	共有価値を創造する なぜ私は今ここにいるのか：ストーリー・オブ・セルフ
9:30	1:10	講義：パブリック・ナラティブとストーリー・オブ・セルフとは
10:40	0:50	チーム演習
11:30	0:25	共有と振り返り
11:55	0:45	昼食
12:40	0:00	共有価値を創造する：ストーリー・オブ・アス
12:40	0:30	講義：ストーリー・オブ・アスとは
13:10	0:50	チーム演習
14:00	0:25	共有と振り返り
14:25	0:10	休憩
14:35	0:05	活力注入！
14:40	0:00	共有価値とコミットメントの結集： ストーリー・オブ・セルフ／アス／ナウを繋げ、アクションを起こす
14:40	0:35	講義：ストーリー・オブ・ナウと全てを繋げ、アクションを起こす
15:15	1:00	チーム演習
16:15	0:20	共有とまとめ
16:35	0:25	まとめ、重要な学びと評価
17:00	0:00	ワークショップ終了

## &lt;受講生の受講後レポートより&gt;

教わったことは早速業務（社員教育等）に取り入れています。会社では「タテ」の関係があるので、「どこまでセルフを出すか」とか「どういった共通項でアスを作るか」といったところでそのまま活用できないところもありますが、教わった視点で講義等を工夫することで、確実に改善されたと感じています。



リーダーシップという「強さ」のイメージがあったが、必ずしもそうではないということが新鮮な発見であった。

・人を動かすのは「理屈」ではなく、「感情」であることは承知していたが、つつい他者を説得して動かそうとしていたような気がする。他者の「共感」を得ることができれば、こちらが求めずとも、他者は能動的になることを忘れかけていた。

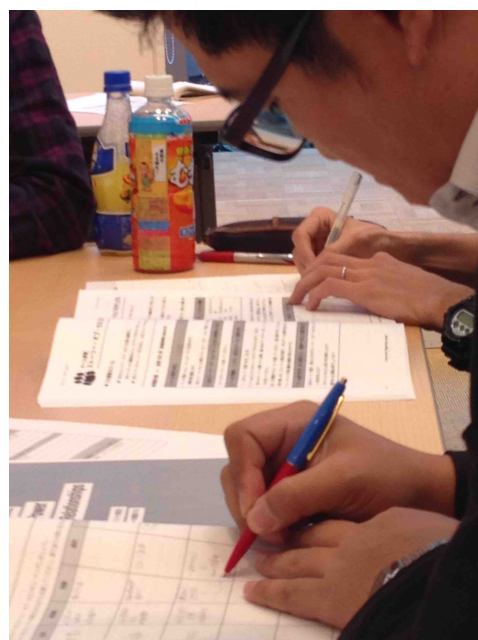


他者を動かすには、他人事ではないと思わせるだけの材料が必要であり、今すぐに行動に移さなければならぬだけの動機付けが必要なことは明白であるが、往々にして動かない理由を相手の無気力か怠慢に求めていた自分は、結局は戦略性の欠如を他者に責任転嫁していただいただけであった。

これまで今回のような内容について体系的に考えたことがなかったが、これまでの自分の経験を振り返っても、相手を説得できたり相手から共感を持ってもらったときには、パブリック・ナラティブが自然とできていたのではと思います、納得感の高い内容だった。業務においても、今回の点を活用したい。

これまで大隈塾では、リーダーの話を書く、田植え・稲刈りで稲作を体験することで多くのインプットをしてきました。今回は、伝えたいことを効果的にアウトプットする方法を学びました。アウトプットをどのように行えばよいのかについては多くの方が悩んでいると思いますので、大変良い授業だったと思います。個人的にも、アウトプットの方法にはコツがあることを知り、アウトプットのフィードバックをもらうことで自分にはどの部分が足りないのかを直接的に知れたことが大変良かったです。

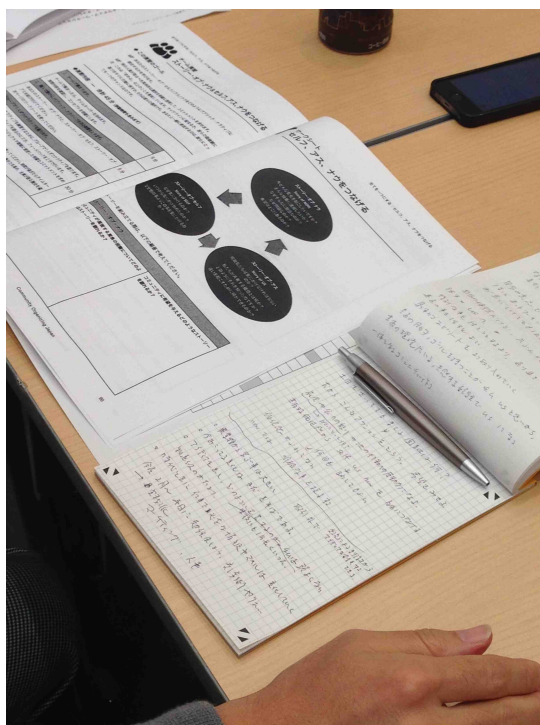
日々の仕事では、リスク管理に関係各部やナショナルスタッフを巻き込んで行くところで奮闘していますので、今回学んだ共感を呼ぶコツをうまく活用して、社内の人間を巻き込み、業務を進めていきたいと思っています。



パブリックナラティブは、いままでで一番勉強になりました。

必ずや実行することで、習得したい。

・テクニックではないと認識しています。本当の、自分であったり、他人の潜在能力を引く出すことができると感じました。



大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.8

2014年11月28日発行

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

村田信之 mura@ta2.so-net.ne.jp

169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19 アーバンヒルズ早稲田207

tel:050-3558-7527 mail:ookuma\_school@stonesoup.tokyo